

## 第 35 期社会教育委員会議（第 2 回）記録

文責：新潟市生涯学習センター

### 協議の概要

○佐藤副議長、中央公民館 渡部館長より資料の説明

#### 【佐藤副議長】

- 1時間くらい話し合いの時間があるのですが、ここで皆さんに意見、アイデアを多く出していただきたいこととしては、大まかに言うと二つあります。
- 一つは、この2年間の中で、新潟市の社会教育や皆さんご自身が日々活動している問題意識などを含めて、この社会教育委員の会議の2年間で扱っていききたい、深めていききたいテーマとか、キーワードと言ってもいいかもしれませんが、テーマ、キーワード、課題でもいいかもしれません。何か自分がやっているところでここに問題意識をもっている、新潟市の社会教育がもっとこうしていったらいいのではないかというところのテーマ、キーワード、課題的なことが1点だと思っています。
- もう一つは、それとも関係してくるとは思うのですが、この2年間でこういうことがしたい、この社会教育委員の中でこういう活動とか、このメンバーで、またはこのメンバープラスこういう人たちも一緒にとか、例えばですが、こういうことをしたい、あのようなことをしたいみたいな、そういうことを皆さんからご意見いただければと思っています。
- 理想的には、今日が終わるときにテーマ、キーワードが二つくらい、何となく「こういう感じかな」というものが収められていけば理想ですが、そこまでいけなかったとしても、いろいろと出していただいた意見を次回までに雲尾議長とか事務局の方とか、私も入るのかもしれませんが、そのあたりで整理させていただいて、次回、こういう感じでどうですかとお示しする形もありますね。さっそくテーマ、キーワード、課題というところ、活動内容、どちらからでもいいので、思いついたところから言っていただければと思います。お配りした資料の中でこれが気になったでもいいと思うので、この辺が重要だなと思ったこととか、このキーワードが気になりましたとかでもいいと思います。

### 【小倉委員】

- 最近のところで課題というか、いろいろ聞かせてもらったのが小学生の学童の問題です。学校によって学童の形とか受け入れている人数とか違いがあるとは思いますが、中には溢れてしまっていて適正ではない状態の学童クラブもあると伺っています。解決していきそうなイメージはあるのだけれども、学童というルールの中でやっていくには難しいというような話を聞かせてもらっていて、学童で預かる時間においても、子どもたちが過ごす時間というのは積み重なるとすごく大きな大切な時間だと思うので、その適正ではない状態を見過ごすというか、早くクリアにしていってあげることを取り組んでみたいと思っていたというところなんです。
- そのアクションをどこからしていったらいいのかというところがすごくつかみにくかったりするので、行政の中でも課が分かれていたり、学校と子ども育成課みたいなところで分かれていたりしますし、そのようなところを、さまざまなセクターから見たり、改めて考えてみるような機会がもてるといいなとは漠然と思っています。

☆キーワードは、「子どもを取り巻く環境、居場所づくり」

☆行政でも担当課が分かれていたりする。様々なセクターから見て改めて考える機会にしたい。

### 【角野委員】

- 建議をただ作るだけではなく、それに向けたアクションというか、何か一つ行動を皆さんとともにできるというのは私もすごく価値のあることだと思っています、今回こういう話し合いの場が設けられていることをすごく嬉しく思っております。その中で私のキーワードというか、今の課題感として申し上げますと、先ほどネットワークというところで質問をさせていただきましたが、普段、高校の探求学習というか授業の支援をさせていただいていていつも思うのが、社会に開かれた学びをつくるにあたって、小中学校はコーディネーターがいらっしゃって、CSが始まって学校と地域のつながりというものが、社会教育を含めてつながりやすくなっているのですけれども、やはり高校が取り残されている感覚がすごくございます。コーディネーターがいる高校はいいのですけれども、そうではない高校は、どのように新潟市における社会の人とつながってほしいのかというところを先生方だけで模索されている状況があって、そこをどうすればいいのかなと常々思っています。高校生になった段階での探求学習というのは、やはり自分のテーマをもって社会にかかわっていく営みだと思うのですけれども、そのかわりすら分からないと、せっかく興味をもってその学習がうまくいかないということも往々にしてあると感じています。10代世代が、地域社会、新潟との接点をもちたいと思ったときに、どこにどうアクセスしていくとそれがうまくいくのだろうかということも思っています、そういう意味で、何か一つネットワークというか、プラットフォームな

のか分からないのですけれども、そういう仕組みを社会教育の中でつくっていただけたいのかな、ということは思っておりました。

- もう一つが、先ほど、新潟市の取組を五つご紹介いただきました。そのうちの一つに青少年向けの事業をされているというお話がありましたが、事業もそうなのですけれども、やはり青少年に対して、10代に対しては、いろいろな人とつながっていける環境が必要だと思っています。先ほどのネットワークともつながりますが、いかにしてまちや人とつながっていける環境を10代に届けられるのだろうかということはいつも考えております。その仕掛けや居場所づくりのようなことを何かアクションしていきたいと思っています。取り残された世代として、中学校以上のところが私にはいつも見えているところなので、まとまっていないのですけれども、以上です。
- キーワードを実現するために、まず第一歩、何が必要なのかが見えているようで見えていないということがあるのです。ですので、そういう意味でやはり学ばなければいけないと思っていて、まずはそういう学びの場をつくるということ、最低でも2年間の中でやりたいことかなど。それを見出すための勉強会なり学びの場をもちたいと思っています。

☆10代の世代が新潟・地域社会との接点をもちたいと思った時に、どこにどうアクセスすればうまくいくのか。そういう仕組みを社会教育の中でつくりたい。

☆いかにして人とつながっていける環境を10代に届けられるか。

※その環境づくり、ネットワークづくりをするために、まず何が必要なのを学びたい。

#### 【清水委員】

- 先ほど報告資料3を拝見させていただいて、率直なところで感じたのですけれども、このコロナ禍でできなかったことがたくさんあったと思うのです。ここの資料を見ても、コロナでいろいろなことができなかったという報告がたくさん書いてありました。我々企業もどこも同じだと思うのですが、言い方は悪いかもしれませんが、やっていたことをやらなくても意外と物事が回っていたり動いていたたりして、これは本当に必要だったのかなと思うことがたくさんあると思っています。企業の感覚からいくと、言い方は悪いのですけれども、やらなくてもいいものはやらずに、やるべきこと、それでもコロナ禍でできないこともたくさんあったけれども、「これはやはり必要だよ」ということに人と時間と予算を注力すべきだと思っています。まず本当に今ある活動のどれが必要でどれが必要ではないのか、必要なことに力を注いでいくようにもっていきたい。今、角野委員が実際に何か動き出すアクションを起こしたいと言われましたが、私もそれにはすごく同感です。ここにいらっしゃる社会教育委員の皆さんは実践者の方々だと思うので、例えばフィールドを決めて、それこそ高校なら高校でいいと思うのですが、そこに社会教育委員が皆で行って、それを伸ばすということ。企業もそうですが、私は正直、今あるものが磨ききれていないと思っていて、ネットワークとよく言うのですけれども、ネットはつくる

のですが、ワークしないネットが山のようにあって、やはり動くものをつくったほうがいいと思うのです。そのためには、一つ一つがしっかりと磨かれてというか、きちんと動く状態になっていないといけないと思っています。私は会社に入る前に市民活動の起業家を支援するNPOバンクの事務局をやっていました。そこでよくやっていたのが、起業市場と言って、専門家が集まって起業したい人が自分の起業プランをプレゼンして、それを口だけではなくて、その専門家が手も足も全部使ってその人を伸ばすという活動です。今回もそういう動きがいいなと思っていて、私も勉強は勉強でいいと思うのですが、何かやりたいけれどもどうしたらいいか分からないというフィールドをいくつか決めて、この2年間で徹底的にこの社会教育委員の皆さんの総力を結集してそこを伸ばすということをやったらどうかなと思っています。そうすると、多分いろいろな課題が見えてきて、どうつながったらいいかがきつと見えてきて、そこから初めて次に何を、制度として、仕組みとして本当に何が必要かということが見えてくるような気がします。やはり実践者の集まりでありたいと思っているので、そういう動き方ができると面白いなと思っています。

☆本当に必要なことを見極め、アクションを起こしたい。

☆何かやりたいけれど、どうしたらいいか分からないというフィールドを決め、2年間で社会教育委員の総力を結集して徹底的にそこを伸ばすことをやりたい。

→そうすると、いろいろな課題が見えてきて、どうつながったらいいかがきつと見えてくる。そこから初めて制度や仕組みとして何が必要かということも見えてくる。

#### 【司山委員】

○私が思ったキーワードは、ネットワークと Society5.0 と S D G s なのですが、特に前回皆さんから出ていた意見の中で、「マイノリティ」とか「生き抜く」という部分で、そこに辿り着けなかった人たちはどうしたらいいのかという話が出ていました。S D G s というものも一人も取り残さないと言っているけれども、その目標に向かっていく途中で取り残されていく、その目標に辿り着かない間の、そのマイノリティの方たちをどうしたらいいのかというのは、私も確かにそこは社会の中ではあまり見ていない、見ていなくても、そこではないところを目標に掲げていることで少し薄れているのかなと思ったところがあったので、そこは考えなければいけない課題なのかなということを感じました。

○ネットワークの部分で意見がたくさん出ていましたけれども、私も高校のコーディネーターをやりながら、先ほど清水委員も言っていたらっしゃいましたが、確かにネットという部分では今たくさん横のつながりをつくりましようということがありますが、実際に稼働してなくて名ばかりというパターンが多く、結局仕事量は変わらなかつたりやって

いることが膨らまなかったりということがあります。うまく稼働する仕組みづくり、私は「人づくり」ではないかとずっと感じているので、その中核になる動く実際の人をしっかりと育てるところにもう少し力を注げるような、勉強会なのか実践の何か実例みたいなものを皆で考えてやってみるといことができるといいのかなと、聞きながら何となく思いました。

- Society5.0も、機械化が進めば進むほど必ず取り残される人が出てくるので、便利だからと言いながらも便利な社会についていけない人たちも、それもある意味取り残されていると思います。

☆キーワードは、「Society5.0とSDGS」(特に誰一人取り残さないという点を強調したい)  
☆ネットワークがうまく稼働する仕組みづくり(人づくり)を進める。中核となる人を育てるための勉強会や実践。

#### 【山岸委員】

- 私の中でのキーワードは、皆さんと似ているところもいくつか意見が出ているのですが、一つ目は連携というキーワードがあります。「学・社・民の融合」と言いながら、今いろいろなところが連携していい効果が出て、新潟市はすごく成果も出ている状況だと思うのです。けれども、先ほど角野さんが言ったように、例えば高校で切れてしまうとか、大学も学部によっては切れてしまうとか、そういうところで行き詰まり感を感じていて、だけどその上の地域の人たちはつながっていたりする。でも若い世代は今なかなかつながれていなかったり、まだばらけていたりする感じがします。この限られた資源と人間と予算の中でこの社会教育とか生活とかを豊かにしていくには、もう連携しかないのではないかなと思っていますので、ここでは連携というものをキーワードに挙げました。
- 社会教育資源の有効活用ということも非常に大事で、それがもう一つのキーワードです。それは高校もそうだし、例えば、公民館と出ていますが、コミュニティセンター、コミュニティハウスは地域にあって、それしかない地域もあります。そこでも社会教育が進められるように、公民館を見本にしながらやっていけるといいのではないかなと思っています。その辺もまた実践もやっていきたいと思いますし、そのように地域ごとにいろいろな資源があって、それを有効活用することで社会教育がもっと充実していくのではないかなと思っています。
- 「社会教育施設」の「施設」だけを言葉にしてしまうと、ではないところは どうしたらいいのだろうか、そこでの社会教育はどうやって進めていくのだろうか、何かコーディネーターの中での引っ掛かりがあります。実は「社会教育施設」イコール「社会教育」ではというところが私の中にはあって、それで前日も発言させていただいたのですが、そこは、私の中でもまだ思っていることです。

☆キーワードは「連携」、「社会教育資源の有効活用」

☆新潟市の「学社民の融合」は成果が出ているが、高校や大学で切れる（大人は地域でまたつながるが）など行き詰まり感がある。

☆例えば、コミュニティセンターやコミュニティハウスしかない地域でも、公民館を見本としながら社会教育が進められるような状況になるとよい。施設にとらわれず、地域ごとの資源を有効活用することで、社会教育がもっと充実すると思う。

#### 【平山委員】

- 学校現場なので、軸が学校であったり子どもであったりしてしまいますけれども、キーワードとして私が思ったのは、「地域人材」と主に「放課後とか週末の居場所」です。  
「地域人材」から申し上げると、「地域と学校のパートナーシップ事業」というものがずっと続いておりました、今年度から「コミュニティスクール」も全校で実施になりました。それぞれ各学校区の伝統的なものでもありますとか、歴史でもありますとか、地域の現状でもありますとか、そういうものを地域の皆様から教えていただきながら、子どもたちはそれに触れて、地域の課題を考えて、これからこのように自分たちはしていきたいとか、こうなっていったらいいのではないかというような意見や提言をお伝えしているというパターンが多いと思っていますのですが、それだけでいいのかなというところがあって、結局毎年同じことをしているような状況もあります。
- 今回コミュニティスクールが立ち上がったことによって、やはり学校の教職員の立場としてほしいのは、地域の人材です。学校の教職員と同じように子どもたちに接していただいたり、あるいはICTの技術であるとかそれぞれの強みを子どもたちに提供していただけるような。学校の教職員よりも広い視野をおもちで、子どもたちにそのような世界を見せていただけるような地域人材を学校の中に導入したいということをやくゆくは考えるわけなのです。ただ、校区の中にそういう人がちょうどよくいるかと言えば、当校は全校生徒54人の超小規模校ですので、地域も非常に狭くてそういう方がいらっしゃるのかと言えば多分難しいと思うのです。前任校では、地域の焼き物を子どもたちに教えてくださる人手（講師）を増やすために、公民館の方を学校にお招きしてその技術を公民館の講座として学んで、そこで練習を重ねて子どもたちの前に立っていただくということをさせていただきました。そういう各校が求める地域人材を、公民館等でレッスンを積んだ形で自信をもって中学校なり学校現場に来てくださるような仕組みができないものかなと考えています。それは、学校区だけではなかなか難しいので地域というか、新潟市の人材バンク的な方を、コミュニティスクールが全市一斉というのはそういう意味合いも含んでほしいと考えています。
- それに伴って今話題になっている部活動の地域移行、これは居場所の話なのですが、今後どうなっていくのかというのはまだはっきりとした結論は出ていない状況です。部活動

が学校現場から離れて地域に向かっているというのは間違いなくて、例えば中学生の力を外に発揮できたり、中学生が小学生の面倒を見たり、高校生が中学生の面倒を見たりできないかとか、それはスポーツの窓であってもスポーツの窓でなくてもいいと思うのですけれども。ただ小学生と遊んであげる中高生がいてもいいと思うし、兄弟も少ないですし、そういう窓があってもいいのかもしれないと思っています。それが勉強であっても趣味であってもいいと思うし、パソコンが得意な中学生が地域のお年寄りの方に教えてもいいと思います。そのような、土日の週末や平日の放課後に、例えば中学生が小学生の面倒を見るとなったときに、やはり安全面とか、何かあったときの補償などが当然かかわってくるので、そういうところが網羅できる仕組みというところが、これから整備されるべきところなのかなと考えています。ただ、それが社会教育という窓に当てはめていけたら、非常に有効な施策になったりするのかなということを考えたりします。

☆キーワードは、「地域人材」と「放課後や週末の居場所」

☆「地域人材」を学校の中に導入したい。

例 公民館事業で地域の焼き物の指導（ボランティア）ができる人材を育成してもらい、学校現場に指導者（ボランティア）として入ってもらう。

→学区ごとではなく、新潟市の人材バンク的な考え方

☆「放課後や週末の居場所」をつくる。

例 中学生が小学生の面倒をみる、高校生が中学生の面倒をみるなど。スポーツでなくても、遊び、パソコン、趣味でもよい。PCが得意な中学生が地域のお年寄りに教える。

☆それらの仕組みが社会教育で網羅できれば非常に有効な施策になるのではないかな。

#### 【竹田委員】

- 協議資料1、佐藤副議長が説明して下さった国の施策にもあって「おお」と思ったのが、子ども・若者の参画という辺りです。子どもの参画については、今、小中いろいろところで子どもたちは参画しています。高校は手薄だという話もありましたが、私は野外活動というものを一生懸命にやっていて、県のキャンプ協会などにも所属しているのですが、そこで一生懸命やっているメンバーは、ほぼ私と同世代か私よりも上、残念ながら若者がいないという現状があります。世の中、芸能人の話で恐縮ですけれども、ひろしですという人たちがぼっちキャンプなどをやっていますが、自分のやりたいこと、自分のためにはけっこう行動するのだけれども、ではほかの人のためにしようという人が今は少ないような気がします。ですので、若者の参画という意味も含めて、若い人たちが自分の興味関心だけではなくて、それをもっと広く考えていって、自分の興味関心をほかの人に広めようとか、自分の興味関心があることをうまく活用して、何か世のため人のためになることをしたいと思える若者を育てていく必要があるのかなと思っています。

では、それはどうやったらできるのかというと、まだ分からないのですけれども、先ほど起業家というお話もあったのですが、自分のことを考えても、自分で何か起業するというのはすごく大変だなと。ならば今ある会社に入ったほうがいい、学校の教員になったほうがいい。では、自分で一から学校をつくろうなどと言ったらものすごい労力だし、そういう気持ちがあっても駄目だなと思ってしまう。けれども、「そこを何とかしてやろう」、「仲間を集めてそちらの方向で頑張ろう」という人たちを育てていけばいいのかなと。そういう仕組みみたいなものをつくっていったらいいのかなと。どういう仕組みをつくっていけばいいのかについては、若者もこのメンバーに入れながら、私たちも若者からいろいろもらいながら、一緒に模索できるといいのかなと思っています。

- いい例かどうかは分かりませんが、沼垂テラスはきっと若者が絡んだのだろうと思うのですが、私の学校の地域のことを考えても、この前も区長と語る会というものがあって、集まったメンバーは皆自治会長とかものすごく上の方ばかりで、若者は誰もいない。本当にそれで地域のことを話し合っているのかなと思う部分もあります。何とかそういう若者が参画できるようなシステムというか、体制みたいなものをどうするか、そのように参画したくなると思ってくれる若者をどう育てるか。
- 別の勉強会で、佐藤副議長がデンマークのことにすごく詳しくて、その話を私も聞いたのですが、デンマークは若者がものすごく政治に参画する、投票率もものすごく高いのだそうです。この前、新潟でも県知事選挙とか参議院の選挙がありましたけれども、残念ながら投票率はそれほど高くないというあたり、そういうところにもつながってくるのかなと思うのです。このままではだめだと。何とか私たちの力で、若い人たちが「頑張らなければいけない」と思えるような、そんな若者をいかに育てていったらいいのかというところを考えていく必要があるのかなと思いました。

☆キーワードは「若者の参画」

自分のためには動くが、「他の人のために」何かをしようという人は少ない。

自分の興味関心をもったことを他の人に広めようとか、「世のためになることをしたい」

☆例 区長と語る会に集まったメンバーは、自治会長など上の人ばかりで若者はいない。  
若者が参画できるシステム、体制づくり、自ら参画したくなるような若者をどう育てるか。

#### 【白神委員】

- 私が話すときすごく平たい話になるかもしれないのですけれども、私は、やはり図書館の立場ではないのですけれども、本がすごく好きなのです。特に絵本が大好きなのです。そこで、どういう絵本を子どもたちに伝えたいかということ、すごく楽しい絵本を伝えたいと思っているのです。なぜかということ、子どもたちに楽しさを味わってもらいたい。というの



は、私はもう一つ平和活動みたいなことをしてしまっていて、毎年、昔は「この子たちの夏」と言っていて今は名前を変えているのですけれども、広島と長崎の原爆に遭った方たちの手記とか詩を朗読しているのです。それはずっと30年くらい、一人でやってきたこともあったし、仲間と一緒にやったりして伝えてきているのです。それはなぜかという、この平和な世の中、本当に平和と言えるかどうかは少し問題もありますけれども、戦争中に比べれば平和だと私は思うのです。その平和な世の中で生きている自分の命がすごくありがたいことなのだなど、ありがたいことと言うとおかしいのですけれども、大事にしなければいけないと子どもたちに感じてもらいたくてやっているのです。その活動は、新発田が非核宣言都市になっているからなのですが、新発田の中学校に毎年3校ずつ行っています。全校の生徒に聞いてもらっていますが、必ずその時の悲惨さを伝えることだけではなく、今、この世の中に生を受けて生きていたいと思っていた多くの子どもたちが、本当に何も分からないまま死んでいった。でも、あなたたちは、今この世界に生きて楽しさを十分味わってられるよねと、そういうことはすごく嬉しいことだよねという感じで、今生きていることを大切にしてもらいたい。相変わらず子どもの自死というか、そういうものもありますし、その思いでやっているのです。

生きていることは楽しいことなのだと思ってもらいたいから、本も伝えているし、そういうものもやっているのです。新発田市ではそうやって中学生に伝える機会があるのですけれども、新潟というところがないのです。大人には伝える機会があります。でも私は、本当は中学生、高校生に聞いてもらいたいと思うのです。地元でも、小学校6年生が戦争のことを学ぶ時期があります。その時期にいつも呼ばれて、それに関係するような本を読んでもらいたいということで1時間授業をやるのですが、そこでもやはりこういうことがあったけれども、あなたたちは皆生きているからその命を本当に大切に楽しく生活していこうねということを必ず加えるのです。

- まとまりがつかないのですけれども、やはり遊ぶにしてもほかの子とは遊ばないみたいな感じとか、すごく個で生きていくということを身につけてしまう子どもたちが多いいと思います。でも、皆で共有し合って生きていくというか、皆で楽しさを共有し合って生きていくということを子どもたちに感じてもらいたいと思っているのです。その一つの媒体として絵本であったり朗読であったりするのですけれども、そういうものを子どもたちに伝えていくような。
- 地域の中で、その子どもたちを見守りながら、若者もお年寄りと一緒に育ち合う組織づくりを進めて行けたらと思っています。現在の公民館講座や居場所作りは、互いに手を携えてというより、年代を特定した集まりが多いような気がします。

☆生きていることは楽しいことだと、中高生に伝えたい。

☆皆で楽しさを共有し合って生きていくことを子どもたちに感じてもらいたい。

☆若者もお年寄りと一緒に育ち合う組織づくりを進めていきたい。